

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101568		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム泉ヶ丘		
所在地	熊本市東区南町16-8		
自己評価作成日	平成28年2月3日	評価結果市町村受理日	平成28年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年3月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年3月16日に開所し、グループ全体の理念でもある①「私たちは、安心・安全をテーマに、ほっとできる心地よい空間づくりを目指します。」②「人生の大先輩である年長者を敬い、お一人お一人の尊厳を大切にします。」③「自由で自分らしくいられる、否定しない介護を目指します。」を掲げ、日々穏やかに、笑顔の絶えない楽しいホーム作りを目指しております。中でも、「穏やかに」という点に比重をおき、職員自体がバタバタしないように日々心掛けております。又、外観(ハード面)に負けないようソフト面強化の為、外部研修等積極的に参加させて頂いております。最後に、地域と深く密着出来るように、地域交流室を地域の方々に開放し、会合・会議などに利用させて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本市東部の閑静な住宅街の中に、法人で4つ目の事業所として開設したホームは『真に地域に密着したグループホーム』を目指し、この1年一人ひとりが安心してその人らしく暮らし続けることが出来るよう、職員がチームワークを持って支援にあたっている。また、入居者の生活を支えているのは、外出支援や馴染み・ゆかりの品に囲まれた居作りなど様々な家族の協力や、運営推進会議のメンバーをはじめとした地域の存在があげられる。これに添えるべくホーム側も、地域交流室の開放や多くの職員で参加協力する清掃活動・『こどもみんなの家』への登録など、地域に根差したホームとなるよう努力している。開設当初から入居希望者に限らず、行政や介護・福祉関係者の見学も多く、ハード面に負けないソフト面の強化を重要視し、『優しく 穏やかに ゆっくりと』を、目標に掲げ、入居者支援にあたっている。中庭には今年桜が植樹され、入居者と職員、また来訪者に穏やかな時間を提供している。また来年の桜の開花も楽しめるよう、ご縁のあった入居者に一日一日を大切にしたいと支援を願いたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼後、出勤社員全員で理念を唱和し、共有する事により、理念に沿った介護を行っている。 又、時折利用者様も参加され行うこともある。	法人の掲げる3項目理念を浸透させるために、毎朝礼後の唱和により意識徹底を図り、1日をスタートしている。この唱和には時折入居者の参加もあり、職員のサービス向上への意識も高まっている。また、ホーム内の掲示により関係者への啓発としている。年目標として掲げた『やさしく 穏やかに ゆっくりと』は、職員採用時も1番重要視している点である。	まずは法人理念の浸透とホーム年目標を掲げ、入居者支援に努めた1年である。新年度を振り返り、地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を掲げることも大切であり、検討されることを期待したい。今後、パンフレットを作成される時は、理念を記すことも啓発に繋がると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会と協力しながら、地域清掃や行事に参加している。又、回覧板による情報収集や「こどもひなんの家」にも登録している。	ホームは自治会に加入しており、地域の情報は回覧板や運営推進会議の中でも得ることができ、一斉清掃への参加やホーム前で子供みこしの披露なども行われている。また、地域交流室を包括支援センター・子供の会合や折り紙教室に無償で開放している。この他「こどもひなんの家」に登録するなど、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。	『真に地域に密着したホーム』を目指しており、その姿勢や取り組み内容は聞き取りや、運営推進会議の記録からも確認された。今後は地域から出された意見や要望などは、対応策や発言者への報告など記録に残しておくことで、貴重な意見が更に職員に浸透すると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、事業所内の状況報告等の発信(外部参加者10名)を行う事により理解を深めている。前回の運営推進会議で、今後合同の防災訓練実施の議題もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月/回の定期的開催をしており、外部メンバー10名の参加がある。施設内状況をオープンにし、開かれた施設を目指し、意見を参考に取組んでいる。又、熊本市の実地指導の結果も報告している。	初回を昨年7月に、その後2ヶ月ごとに地域交流室で開催されている。メンバーは家族・地域の代表・包括支援センターの他、地域交番所長や協力医療機関院長など心強いメンバー構成となっている。ホーム側も法人部長や管理者・ケアマネ・看護師など可能な限り会議に参加することで、ホームの現状を細かに発信している。ホームの現状や活動報告、質疑応答等有意義な会議となっており、外部評価についての質問にも、内容や意義などが回答されている。議事録はカウンターに置いて開示している。	メンバーの一員である家族からの出席の機会が少ないようである。今後家族の集まる機会などに、会議への出席について話し合われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、「ささえりあ江津湖」の管理者が毎回参加されている。その他、熊本市の介護相談専門委員派遣が、今年より入って頂くようになった。	運営推進会議には包括支援センターの出席や、市の集団指導、研修会にも積極的に参加している。また、介護相談専門員の訪問も受けており、サービスの向上に活かしている。市の担当部署とは、日頃から報告や認定調査等を通じて協力関係を築いており、共用デイサービス申請についても、その都度アドバイスを受け進められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まず契約の際ご家族に拘束をしない方向性の趣旨を必ず伝え、職員には、研修(勉強会)等で、周知徹底している。玄関施錠はしておらず、センサーにての安全確保をしている。	「身体拘束廃止宣言」を掲げ、拘束・虐待に関する勉強会を開催している。その中で身体・言葉による拘束について、具体的な例を挙げ禁止の対象となる行為の徹底理解を図り、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、管理者は車椅子は移動手段として捉えることを指導している。居室の腰窓は、安全面から全開できない(10センチ程)部屋もあるが、行政に相談し了承を得ている。	安全面から前開できない方の窓については、ストッパーの使用を行政に相談後使用しているが、他に検討の余地がないか、職員間で話し合っていたきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会はもとより、日々の介助で職員がストレスにならないよう、職員同士の声掛け励ましを行っている。又、管理者が、1ヶ月の内、入浴と夜勤を数回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状この制度の対象が無い為、知識・理解不足と考えられる為、早急に学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書は双方納得の上で契約出来ていると思う。又、契約の前に、管理者・ケアマネでご家庭に何度も足を運び契約に至るケースが多かった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、全く利用されて無いため、面会時に管理者・職員が極力ご家族と話す機会を持つように心掛けている。又、今年より熊本市の相談専門委員派遣の手続きも行った。	入居者とは日常の関わりの中で、要望等を聞いており、朝礼や会議の中で職員間の情報の共有を図っている。家族とは面会時等に、入居者の近況を話す中で要望を聞いており運営に反映させている。また、意見箱の設置やホーム内外の苦情相談窓口については、契約時に説明している。ひと月に1回の介護相談専門員の訪問もサービスの向上に活かされている。	家族会の発足が計画されているが、意見や要望等を表せる場としても期待が持たれる。併せて、家族アンケートの実施も有効と思われる。取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の中で、職員の意見等必ず全員が1回は発言する場を設けている。又月に1回職員全員が、代表者宛に要望等書いた手紙を出している。	管理者は日頃からケアに入っており、その関わりの中で、職員とのコミュニケーションを図るよう心掛けている。また、毎月一回の全体会議の中で、職員からの意見を収集している。開所以来3回実施した個人面談でも、意見や提案を聞いている。これまで、職員の要望により重度化した場合の看取りについて研修を実施している。代表者宛へ手紙による意見や提案をあげる取り組みも行われている。離職のない職場環境は、入居者・家族との信頼関係も深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	完全に整備されているとは言えないが、退職金制度の導入や今後資格取得者への、祝い金等検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、積極的に外部研修等参加し易いように、費用負担を行っている。又、介護以外の研修参加も、呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のブロック協議会や、ささえりあ江津湖管内の会合等に月1回以上のペースで参加し、意見交換や勉強会をさせて頂いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より自宅や施設を訪問し、なるべく多くの情報収集し、信頼関係を築き又、安心を確保出来る様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記訪問時、家族同席にて話したり、何度も当施設を訪問して頂く事で信頼関係を構築するようにしている。特に出来ない事は、はっきりと伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前CMさんも、話し合いに入る事もあり、施設長・CM・看護師・介護士等で共通認識を持ち、統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームは、家庭の延長との思いを職員の共通認識とし、一緒に食事をしたり、洗濯干しをしたりと出来ることは協力しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も多く、情報の共有をしながら、本人様を共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム周辺の入居者様も多く、地域住民の方がいつでも気兼ねなく来られる雰囲気作り心掛け、又地域交流室を地域の方その他に開放している。	本人の住んでいた地域の公園や自宅(空き家)に出かけたり、家族の協力を得て、墓参りや理美容院へ通うなど、一人ひとりに応じて馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、本人のこだわりの品や思い出の品についても、継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性等考慮し、テーブル位置の配慮をしたり、なるべく1日1回ユニット全員が集まる時間を設けている。トラブル発生時は、即座に職員が間に入り孤立を無くす様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際1件の退所(精神科入院による)があったが、未だにご家族や入院先相談員と情報交換・提供等実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の変化を迅速に把握できる様に毎朝の朝礼等での把握を心掛けている。又担当職員と外食したり温泉に行ったりと出来る範囲の支援は行っている。	毎朝の朝礼等で、一人ひとりの日々の変化の情報を共有している。また、入居者を職員の担当制とし、様々な希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族や面会者から情報を得たり、表情から推察しながら本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりなるべく多くの情報収集を心掛け、少しでも馴染みに近い生活が出来る様支援したいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまで生活されてきた情報を取り入れ、極力ご利用者様にあった過ごし方が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスや家族を交えての担当者会議等を行いケアプランに反映させている。	カンファレンスは2ヶ月に1回実施している。職員の気づきや本人・家族の要望が新たに出されたり、体調の変化が生じた場合は、その都度見直し現状に即したプランとしている。担当者会議は半年に1回実施しており、会議には毎回本人・家族の参加が得られており、ホーム側も管理者・ケアマネ・担当者が必ず参加して実施している。プラン説明の前に評価を踏まえた内容を担当者から生の声で伝えた後、ケアマネより新しいプラン内容を説明し、管理者より全体的な話で会議を締めくくっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は勿論の事、利用者様によっては、独自バイタル表を作成し、職員間での共有をしている。問題があれば、適宜ミーティングを開催している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、HP受診・緊急受診・買出し・保険申請等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域子供会の行事や、施設内交流室で月2回開催される折り紙教室等に参加し、外部との隔たりが無いように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科医)が2件あり少しでもご本人及びご家族の選択肢が広がる様支援している。又それに関わらず、主治医は自由としている。	かかりつけ医は本人・家族の希望を尊重しており、現在は2ヶ所の協力医による住診や家族により受診対応も行われている。また、食後の歯磨きや義歯洗浄などに努めており、協力歯科や訪問歯科医院により本人にあった口腔ケアが行われている。看護職員を中心に(看護師資格者他2名在籍)、医師・薬剤師との連携、バイタルチェックや月1回の体重測定などにより入居者の健康管理に努めている。また、家族と入居者の状況を共有しながら、適切な医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の情報交換は良好で、的確に伝えられている。又看護師連絡ノートを活用し適切な受診・対応が出来る様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医との情報交換の他、入院施設のある病院とも良好な関係が築ける様している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、入所時終末期の話を行い、医療連携同意書の承諾書を頂いている。又職員向けの勉強会開催やDrを交え適宜家族への説明を行っている。	入居時に、医療連携同意書(看取り指針含む)について話しを行い承諾を得ている。実際そのような状況になったら新たに家族に説明を行い、同意書を得ている。また、内・外部研修会において全職員が、看取り支援についての認識や本人・家族の思いに応える日々の介護について共有を図っている。	今後も医師との連携や職員のメンタル面にも配慮した職員研修の開催に期待したい。また、多くの入居希望者がおられることはありがたいことであり、これからもご縁のあった入居者・家族の思いに応え、『泉ヶ丘』のできる最良の時間を提供いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分とは言えないが、AED勉強会等で訓練や認識を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち合いの訓練や、消防署主催の講習会に参加している。又来年度は、自治会と協力しての防災訓練を予定している。	年2回の災害訓練や消防署主催の講習会に参加している。災害対策については、運営推進会議の中でも質疑応答の中で意見交換されており、今後はメンバーや近隣者にも参加を呼びかけた防災訓練を予定している。職員は駐車場などを含む、安全確認やコンセンートの埃などにも注意を払っており、居室は夜間21時から5時までの間に、入居者の就寝状況と合わせ安全確認を行っている。	自然災害の恐怖をあらためて感じる昨今である。今後は机上訓練や災害を風化させないような取り組みが望まれる。また、災害備蓄については、必要な物をリスト化し、準備や全職員で共有されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりと 穏やかに 優しくを基本に声掛けは実践している。	時間や日課に縛られず、入居者のこれまでの生活や生き方を尊重し、穏やかな毎日を過ごしてもらえるよう心がけている。呼称は『苗字にさん付け』を基本としているが、夫婦の場合は、下の名など家族の了解や本人の反応を見ながら対応している。個人情報の使用については、入居時に書面で説明を行っている。また、職員の守秘義務についての指導やプライバシーに関する内部研修により周知徹底されている。1日の流れも目安はあるものの、起床や食事時間など意志を大切にしており、居室についても、本人のこれまでの人生を大切にしたい環境が作られている。	方言を使った会話は入居者にとっても安心され、コミュニケーションに繋がるものであるが、今後も馴れ合いの言葉掛けなどが無いのか、振り返る機会を持たれることも必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間、起床就寝時間はある程度の目安はあるものの、基本ご利用者様の時間帯に合わせ支援を行っている。ご利用者様の意思を大切に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の1日の日課表は作成しておらず、お一人お一人日々違う行動に対応できる様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容を基本に、時には化粧を楽しんだり、外出時には家族差入れの洋服を着られたり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時等は特別食を用意したり工夫し、おやつ時に職員と利用者様が一緒に「だごやき」を作ったりしている。茶碗洗い等も一部利用者様積極的に参加される。	家庭的な料理をモットーに食材は専門業者を活用しているが、野菜は地域商店を利用している。希望を取り入れた誕生会食や正月・敬老会など季節のイベント食も好評である。また、盛りつけにも心を配り、季節の葉を添えるなど工夫が見られた。入居者の食への関わりとして茶碗洗いや下膳、おやつ作りなどできる事に無理なく関わられるようにしている。入居者は中庭を眺めながら、職員の見守りや介助のもと食事を摂っている。訪問当日も家族が持参した弁当と一緒に食されており、嬉しい食事の光景であった。	入居者の思いを共有するためにも、味や量の確認を兼ねて検食者を設け感想などを記録に残すことで、更に楽しい食事支援に繋がると思われる。また、エプロンの使用については、首に負担のない方法など検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を使用している。水分補給時間を設定し摂取頂いている。又家族持参の好きな食べ物、飲み物を定期的に提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底出来ている。出来ない方は支援させて頂いている。又、希望により医師の定期的訪問治療・指導を受けられている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にての管理を行い 意思表示の無い方は時間を決め誘導を実施している。使用量や使用方法については、家族の要望も聞くようにしている。	殆どの方が自立であるが、全介助や見守りの必要な方も半数おられ、声かけや誘導など個々に応じ支援している。その際職員はさりげないサポートに努め、次にトイレを使用される方に不快の無いよう、流し忘れや汚れなど小まめに確認している。排泄用品については家族の要望も確認し、「どうすれば少ない使用量で済むか」など、カンファレンスで最良の方法を検討している。排泄用品の購入は、家族の負担軽減も考慮し、ホームが中心に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	Dr指示のもと定期薬を使用されている方や、習慣の飲み物等で工夫している。又排便チェック表にて管理し傾向の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本2日に1回と決めてはいるが、ご本人様の意思優先を心掛けている。	入浴は基本的に1日置きの支援としているが、ほぼ毎日希望される方や拒否の方へも無理強いせず週1～2回など、本人の意思を優先しながら清潔保持に努めている。入居者の中には、仲良しさんと一緒の入浴を楽しまれる方もおられる。また、菖蒲や柚子湯は全員が季節や香りを味わえるよう、3日間に渡り支援している。	入居者の身体状況から安全面に配慮しながら入浴支援が行われている。今後は音楽や新たな季節湯や変わり湯（檜や花など）支援など、職員のアイデアを活かし、入浴が待ち遠しくなるような取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や気分を考慮し状況に応じ対応している。又眠れないご利用者様には、添い寝する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になったりした時点で、看護師より変更内容や副作用の説明がある。又調剤薬局の薬剤師さんより定期的な説明、ご本人 ご家族 職員になされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本レクレーションにての気分転換が基本であるが、茶碗洗いや洗濯物干したたみ等役割分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のお蔭で希望に応じた外出や外泊が出来ている。又職員との外食や温泉等取り入れている。(まだまだ一部)	季節の外出として、江津湖、動植物公園や県庁の銀杏並木見学などを実施している。しかし身体状況から全員での外出は困難になっており、買い物を希望される女性入居者、職員との外食や温泉入浴など個別支援の充実に努めている。また、外泊や帰省など家族協力が得られている。管理者は今後も、状況に応じながら入居者が戸外に出る機会を作っていきたいとしている。	ウッドデッキや芝生のある中庭など、気軽にお茶を飲んだり外気浴のできる環境であり、引き続き身近な外出支援として継続される事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族協力の基、一部利用者様は自分で金銭持参されている。それで職員と買い物や食事に行きお支払される。今月より仮売店をイベントとして開催するように熊本市と相談しOKが出た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みもOKしており、自由に家族と会話されている。希望があれば、電話の支援をしている。(家族から、かかって来る方が多い)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等には、季節の花などを飾り季節感を味わって頂いている。	玄関から入ると共有の台所を中心に左右にユニットが配置され、ホーム内は木材を活かしたゆとりの空間である。入居者は歩行訓練をしたり、ソファに座ってテレビ見たり、面会の家族と寛ぐ方など、職員は見守りながらその方の時間をサポートしている。庭先には、植樹された桜が開花し始め、入居者と職員が桜を愛でる光景が印象的であった。身体に優しい床暖房の設置や、居室を含め小まめな温湿度管理は、居心地の良さにも繋がっている。	季節の飾り物に加え植物がある環境は、入居者や来訪者にとっても心と和むものと思われる。家族による花の差し入れも行われているが、今後は職員も敷地内にある身近な草花などを努めて空間に取り入れていかれることを期待したい。また、ホーム内に置かれた観葉植物については、今後も入居者と一緒に大切に育てていただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル3セット ソファ1セットの他小さなテーブルを使用し状況に合わせた居場所の提供を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のインテリア等は、本人 家族の自由にして頂いており、馴染みの物はなるべく持参頂く様にお願いしている。	入居時に安心した生活が送れるよう、馴染みの品・ゆかりの品々の持ち込みやインテリアは自由に行ってほしいことを説明している。居室の入り口に設置された飾りつけボードは、家族の協力も得ながら季節感や心が和むようなメッセージなどが掲示されている。こだわりの衣類を持ち込まれ、その日の衣服の選択を楽しまれる方、校区の新聞作成に携わった原本が置かれた部屋、地方紙を開かれる方など、これまでやこれからの時間を大切にして欲しい家族の思いが詰まっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全確保に注意し、自由に生活できるようにしている。		